

広昌山観音寺（築港）の裏山・天狗山にある「天空の鳥居」までの岩場に、鎖が取り付けられた。23日には市民にお披露目するオープニングイベントを開催予定で、信者らが本堂周辺の清掃活動を行うなど準備を進めている。

（矢吹喜一朗）

# 天空の鳥居 鎖で安全に

同寺は天狗山整備の一環として、市協働のまちづくり事業補助金を活用し9月、鳥居までの道中

で岩肌がむき出しになった滑りやすい場所に鎖約30ヶ所を整備した。今月10日には信者からの要望で、鎖のそばに高さ約30センチの地藏3体が置かれ、柔和な表情で参拝に訪れた人々たちを見守っている。

鳥居は、新型コロナウイルス禍で観光客が減少する中、「玉野に新しい名所をつくらう」と市民から提案を受けて2020年6月に同寺が建立。眼下に瀬戸内海が広がる絶景スポットとして連日、県内外から参拝者が足を運んでい

## 広昌山観音寺・天狗山 道中の岩肌へ30ヶ所整備



「天空の鳥居」までの岩場に設置された鎖と参拝者を見守る3体の地藏

## 柔和な表情の地藏3体も 23日、お披露目催し



イベントに向け清掃活動を行う山本住職（左）ら

る。岩場にはこれまでロープを取り付けていたが、参拝者が増加する中、安全面への配慮からより頑丈な鎖にしたという。

23日のイベントは、地域住民や玉野への恩返しとして企画。午前9時開始で、玉野高吹奏楽部による演奏や関係者らによるテープカットなどが行われる。当日は築港小と同高に駐車できる。

山本観詠住職(48)は「天空の鳥居を通して人々の縁が広がり、玉野が活性化してほしい。イベント当日も登山できるが、鳥居までの道は滑りやすく険しいので、気をつけてお参りを」としている。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。